

## 持続可能なまちづくりの環に 病院を据えた政策づくりを

シンポジウムにはパネラーとして「富山国保病院と地域医療を守る会」の山口純一事務局長、地元「平群地区」の山野井区長、地域医療を支えている「花の谷クリニック（千倉町）」伊藤真美院長が登壇。

地元区長の山野井氏は病院が創設された経緯からこれまで果たしてきた役割、果たしてほしい役割などについて語りました。また、伊藤真美氏は、「開業医として、症状が悪化したときに公立病院だから安心して紹介できるのが富山病院。鈴木病院長を先頭に、病院スタッフがとても優しく患者のために頑張ってくれている」と公立病院の必要性を強調するとともに、市内の2名の開業医の先生と3名で「富山国保病院の存続・充実」の要望書を年内に石井市長に提出要請すると話しました。

このようにシンポジウムでは、運動の輪が広がっていることが再確認されました。その上で、「富山国保病院と地域医療を守る会」の山口純一事務局長は、本日をスタートに、あくまでも存続・充実をもとめ、年明け早々から、①あらためて市民アンケート調査、②これを元に、持続可能なまちづくりと、そのための病院のあり方などについて政策作りと市への提言など、できれば市との共同の取り組みとして具体化していくことを提案しました。

また、コーディネーターの長平弘氏は、少子高齢

化、地方・地域の衰退という困難を克服して、持続可能なまちづくりにむけて、その貴重な財産（資源）として富山国保病院を位置づけて、第1に、国のこれからの医療制度のさらなる改悪のもとでの医療難民、介護難民の増大と医療の自己責任化が予想される中、あらためて富山国保の存続・充実がもめられること。第2に、本格的な少子高齢化対策の具体化、第3に農業・漁業・観光など地場産業の振興のためにも担い手の健康づくりと地産地消、とりわけ公共調達による地域産業の振興を視野に入れた「まちづくりと病院」をテーマにした政策づくりの必要性について強調しました。



## 自民の裏金づくり 許せない! 平和憲法守ってヨ!! 軍事費拡大おかしいでしょ!!

県社保協・憲法共同センター・消費税連絡会・共同宣伝

12月26日(火)12時~13時、年末の買い物客でにぎわう千葉駅東口そごう側通路にて共同宣伝を行いました。

新婦人作成の「自民の金権腐敗政治に私は言いたい」のシール投票で対話がはずみました。

「保険証残そう」の署名ハガキ入りテッシュを500セット配付。「保険証残そう」の署名では「友人たちとの話題にはならないが自分は絶対なくさないでの意思を持っています。絶対この署名届けてください」との声も。

「軍拡NO!」20筆、「保険証残せ!」18筆、「消費税引き下げ」4筆が寄せられました。新婦人、土建、保険医協会、千商連、自治労連、社保協、共産党の7団体15人の参加でした。

